

第15回「市長と語るタウンミーティング」を開催しました

- 1 日時 令和7年5月12日（月） 午後6時～
- 2 場所 善通寺市役所 4階 秘書広報課（特別応接室）
- 3 参加者
農事組合法人 ファーム鉢伏 金崎様
株式会社 平尾農園 代表 平尾様
近藤農園 近藤様
深山のキウイ 山田様
酪農家 松原様
地域プロジェクトマネージャー 福岡様 計6名

4 会議の概要

【テーマ】体験型観光コンテンツについて

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 参加者紹介
4. 体験型観光コンテンツについて 概略説明
5. タウンミーティング
6. 閉会

5 いただいたご意見

【テーマ】① グリーンツーリズムに対してどのような認識を持っているか	
発 言 者	ご 意 見
山田 様	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズムを人手不足の解消策として活用するのは難しい。農作業の未経験者に作業を任せるには、教える手間がかかり、その労力が大きいいため、人手不足の直接的な解決にはつながりにくいからである。 ・一方で、グリーンツーリズムを通じて消費者と直接つながることができる点には、大きなメリットがある。また、農作物の販売に加え、農作業体験そのものを商品化することで、新たなビジネスの可能性が広がるとも考えられる。 ・たとえば、大手企業における部署間の交流活動として、農作業体験を活用してもらう方法がある。企業側にとっては、体験を通じて社員同士のコミュニケーションを促進できるという利点がある。一方、農家側としては、参加者に収穫物を持ち帰ってもらうことで、社内で農産物を紹介・共有してもらえる機会が生まれる。場合によっては、社内販売などの新たな販路につながる可能性も期待できる。
近藤 様	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズムには、大きく分けて二つの方向性がある。一つはインバウンド客を取り込むという視点での企画、もう一つは県外の日本人観光客をどのように誘致するかという視点での企画である。 ・インバウンド客を対象とする場合、単に善通寺の寺院を訪れるだけで終わるのではなく、香川県内では琴平を訪れる観光客が多いため、そこから善通寺市に観光客を取り込む施策を検討することが有効であると考えられる。 ・インバウンド向けのグリーンツーリズムとしては、キウイやスイートコーンの収穫といった単発の体験にとどまらず、善通寺の宿坊や民泊を活用した宿泊付きのツアー型とし、さらに通訳を同行させるなどして満足度を高めることが望ましい。 <p>また、善通寺市では台湾出身の地域おこし協力隊が活動しているので、台湾をはじめ中国、香港、韓国といったアクセスの良い地域をターゲットとしたバスツアー型の企画も有効である。市内各所を巡りながら多様な体験を提供するツアーを設け、その中に農作物の収穫体験を組み込むことで、より魅力的なプログラムとすることができる。</p>
平尾 様	<ul style="list-style-type: none"> ・アーモンドを体験型観光コンテンツとして活用することを提案したい。アーモンドの花は桃の花に似ており、美しく観賞価値が高いため、まずは開花時期に花見を楽しんでもらう。その後、7月頃には収穫体験を提供することができる。 ・アーモンドは栽培にそれほど手間がかからず、収穫作業も繊細さを要しないため、観光客でも取り組みやすい。これらの点から、アーモンドは体験型観光コンテンツとして適していると考えられる。

発 言 者	ご 意 見
松原 様	<p>・現在も、家族連れや小学生を対象に、牛の絵を描く体験や乳搾り体験などを実施している。しかし、宿泊を伴うプログラムは想定していない。というのも、子どもは1時間程度で飽きてしまうことが多いため、長時間にわたる体験には不向きである。</p> <p>したがって、こうした体験は、あくまで短時間のプログラムとして、ツアーの一部に組み込む形で提供するのが適していると考えられる。</p>
金崎 様	<p>・現在、県も推奨している「さぬき讃レモン」の栽培を検討している。レモンの植え付けから収穫までの過程を体験してもらうことを提案したい。収穫後にそのまま購入してもらえる農作物は、ファーム鉢伏では現在のところ、今後栽培を予定しているレモンのみである。</p> <p>・小学校では大豆の植え付けや収穫の体験に加え、その後に豆腐作りを行っている。このようなスタディーツアー形式であれば実施可能かもしれない。協力する意向はあるが、実際にマッチングが成立するかどうかは、今後相談のうえで決めていく必要がある。</p>
【テーマ】② 体験型観光コンテンツをすとして、企画として思いつくものはあるのか	
発 言 者	ご 意 見
山田 様	<p>・キウイの収穫体験が主な内容であるが、季節ごとに異なる作業があるため、収穫時期以外でも体験可能な活動が存在する。また、キウイの蔓を使ったリース作りを行っているが、これは剪定した蔓がある時期に限られる。</p> <p>さらに現在、加工品を作る施設の整備を進めており、ジャムなどを作る体験も企画できる見込みである。加工品づくりは、キウイを冷凍保存しておけば、収穫時期に関係なく実施可能である。</p>
松原 様	<p>・乳搾り体験やカッターチーズ作りの体験が可能である。カッターチーズ作りの際には、お酢の代わりに善通寺産のレモンを使用するなど、地域の特産品と組み合わせることもできる。ソフトクリームにアーモンドをかけ、カップはダイシモチ麦で作られたもので提供するのも良いのではないか。</p> <p>・人手不足の課題があるため、藁の取り込み作業を体験として手伝ってもらえると非常に助かる。</p>

発 言 者	ご 意 見
近藤 様	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーションのような体験型観光コンテンツを労働力として活用するモデルは、やはりハードルが高い。お金を支払って労働してもらう形は、双方にとってメリットが少ないのではないか。 ・スイートコーンについては、約 60 万本を栽培しているため、収穫時期であればいつでも収穫体験が可能である。 ・また、田植え体験を実施し、後日収穫した米を自宅まで届けるサービスも提供可能である。 ・野菜に関しては、レタスなどの苗を植えてもらい、その鉢ごと持ち帰ってもらう形であれば、多くの野菜で対応可能である。 ・グリーンツーリズムの先進事例では、行政がかなりの額の資金を投入している。善通寺で実施する場合も、現状の資源だけで対応するのは難しいと考えられる。行政が予算を確保して積極的に取り組まなければ、農家側も行政側も将来的に困難に直面する可能性が高い。 ・また、グリーンツーリズムはあくまでアグリーツーリズムとは異なるため、高松空港から善通寺までのバス送迎を設け、観光客に地元の食事や寺院巡りを楽しんでもらうようなプログラムが有効である。訪問先や日時をあらかじめ決めることで、バスのチャーターや通訳の同行を実現し、収支を黒字化することも期待できる。
平尾 様	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の農園で企画可能な体験型観光コンテンツとしては、アーモンド関連が考えられる。アーモンドフェスティバルを開催している企業があり、1日に約3万人の来場者があることから、アーモンドには一定の集客力があると評価できる。
金崎 様	<ul style="list-style-type: none"> ・善通寺におけるグリーンツーリズムツアーとしては、例えば「今日はA農園、明日はB農園」といった具合に、複数の農園を順に巡る形態が適していると考えられる。
【テーマ】③ 行政のどういうフォローがあれば取組易いか	
発 言 者	ご 意 見
近藤 様	<ul style="list-style-type: none"> ・高松空港は主要空港の中でもインバウンド客の数がトップクラスである。これは、多言語対応のコールセンターや「KAGAWA Wi-Fi」、「うどん県旅ネット」などの環境が整備されているためである。一方で、県内の観光地を回遊するためのアクセスが不十分であるという課題が存在する。 ・予定を立てていない観光客も多いため、回遊可能な交通手段を用意し、ツアーコンダクターが同行して行程を決める仕組みを作ることが有効である。善通寺市に訪れた際に必ず訪れるスポットを設定し、それらを巡るツアーとすることが望ましいのではないか。

発 言 者	ご 意 見
山田 様	<ul style="list-style-type: none"> ・農家は集客やツアーの企画に苦手意識があるため、来訪者対応は農家でも可能であるが、どのような客層をどの手段で誘致するかについては、行政が主体となって検討する必要がある。 ・民泊を利用するお客様からは、交通手段の不足がよく指摘されている。たとえ料金が高くても、地域内の移動を便利にする「チョイソコ」のような交通手段があれば歓迎される。また、宿泊施設も少ないため、これらの充実も行政による支援が望まれる。 ・ワーケーションなどで訪れる人々のニーズや気持ちが農家側には理解しづらいため、これらを把握するための調査を行うことも必要である。
【テーマ】④ 農家飯を作るといった企画があればそのような旅客を受け入れる余地はあるのか	
発 言 者	ご 意 見
松原 様	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者に対して、絞ったばかりの牛乳を大鍋で沸かして振る舞うことを実施している。生の牛乳は味が良く、好評である。特別な加工をせず、採れたものをそのまま提供する形であれば対応可能である。ただし、大人数への対応は難しい。
金崎 様	<ul style="list-style-type: none"> ・豆腐作り体験は、小学生に教えながら行くと約2時間程度かかる。しかし、そこで作った豆腐は味が格別である。ただし、実施場所については検討が必要である。
【テーマ】⑤ 行政はどのようなサポートをすべきか	
発 言 者	ご 意 見
金崎 様	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金等のサポートの必要性は、実施内容によって異なる。小学生向けの短時間体験程度であれば大きな支援は不要であるが、宿泊を伴う本格的なプログラムの場合は、十分な支援が必要となるであろう。
近藤 様	<ul style="list-style-type: none"> ・プロモーションを目的とするのか、収益を上げて市の財源にするのか、農家に利益を還元するのか、目的によって取り組む内容が異なるため、まずは目的を明確にして企画を進める必要がある。 ・民間が宿泊を含む事業を行う場合は、農家に対して予算を付けて支援しなければ、結果的に農家の負担が大きくなり苦しくなる。